

- 一、觀測所位置一覽表及一覽圖
  - 二、雨量年表
  - 三、雨量累年表
  - 四、蒸發量年表
  - 五、蒸發量累年表
  - 六、氣溫年表
  - 七、氣溫累年表
  - 八、雨量圖
- 流量原簿
- 一、測水所位置一覽表及一覽圖
  - 二、流量測定年表
  - 三、流量曲線圖
  - 四、水位流量年表
  - 五、水位流量圖
  - 六、流況表並流況曲線圖
  - 七、流量累年表
- 地形原簿
- 河川縱斷面圖
- 元臨時發電水力調査局ノ調査ニ係ル圖表類ハ別ニ之ヲ保管ス

### 第十二章 調査ニ關スル規程

一、水力調査規程 前各章ニ於テ説明セル水力調査ニ關スル諸事項ハ主トシテ本規程ニ準據シテ之ヲ行ヘリ、其ノ全文左ノ如シ

#### 水力調査規程 大正七年八月公達第七〇七號

##### 第一章 總則

- 第一條 電氣工業用水力調査ハ特別ノ規程アル場合ノ外本規程ニ依ル
- 第二條 本調査ハ電氣工業ノ用ニ供スル水力ヲ發生スヘキ重要ナル地點ノ選定調査ヲ爲シ併セテ之ニ關係スル河川ノ流量及地形ヲ調査スルヲ目的トス
- 第三條 本調査ニ使用スル單位左ノ如シ
  - 一、雨量 ミリメートル(彩)
  - 二、氣溫 攝氏ノ度
  - 三、蒸發量 ミリメートル(彩)
  - 四、流域 方里
  - 五、流速 毎秒尺
  - 六、流量 個(毎秒立方尺)
  - 七、落差 尺
  - 八、馬力數 理論馬力
  - 九、發電力 キロワット

#### 十、水位

- 十一、河川及水路ノ長サ 間 尺
  - 十二、河川及水路ノ幅 間 尺
  - 十三、水深 尺
  - 十四、河川及水路ノ斷面積 平方尺
  - 十五、潤邊 尺
  - 十六、徑深 尺
  - 十七、堰ノ寸法 尺
  - 十八、堰ノ水頭 尺
  - 十九、勾配 何分ノ一
  - 二十、土地ノ高低及標高 尺
  - 廿一、測量線ノ長サ 間 哩
  - 廿二、送電距離 哩
- 前項以外ノ單位ハ適宜之ヲ定ムル
- 第四條 本調査ニ使用スル主要ナル術語ノ區別及意義左ノ如シ
- 一、落差ハ左ノ如ク區別ス
    - イ、總落差 取入口及放水口ニ於ケル河川平水位ノ高サノ差
    - ロ、有效落差 總落差ヨリ取入口水路水槽及鐵管等ニ於ケル損失水頭ヲ差引キタルモノ
  - 二、理論馬力數ハ左ノ式ニ依リテ算出シタルモノトス
 
$$\text{理論馬力數} = \text{流量} \times \text{有效落差} \times 0.111$$
  - 三、發電力ハ左ノ式ニ依リテ算出シタルモノトス
 
$$\text{發電力} = \text{理論馬力數} \times 0.66$$
  - 四、水位及流量ハ左ノ如ク區別ス
    - イ、湧水位、湧水量

間 尺  
間 尺  
間 尺  
平方尺  
尺  
尺  
尺  
平方尺  
尺  
間 哩  
哩

間 尺  
間 尺  
間 尺  
平方尺  
尺  
尺  
尺  
平方尺  
尺  
間 哩  
哩

間 尺  
間 尺  
間 尺  
平方尺  
尺  
尺  
尺  
平方尺  
尺  
間 哩  
哩

- 一年ヲ通シ三百五十五日之ヨリ下ラサル程度ノ水位及流量
  - ロ、低水位、低水量又ハ九箇月水位、九箇月流量
  - 一年ヲ通シ二百七十五日之ヨリ下ラサル程度ノ水位及流量
  - ハ、平水位、平水量又ハ六箇月水位、六箇月流量
  - 一年ヲ通シ百八十五日之ヨリ下ラサル程度ノ水位及流量
  - ニ、高水位、高水量
  - 毎年一、二回起ル出水時ニ於ケル水位及流量
  - ホ、洪水位、洪水量
  - 三、四年ニ一回起ル出水時ニ於ケル水位及流量
  - ハ、平均湧水位、平均低水位、平均平水位、平均湧水量、平均低水量、平均平水量
  - 前各號ノ水位及流量ヲ數年間ニ互リ平均シタルモノトス
  - ト、最大湧水位、最大洪水位、最大湧水量、最大洪水量
  - 既往ノ事實、里人ノ記憶又ハ口碑等ニ依リ判定シタルモノ
  - チ、幾何日流量又ハ幾何月流量
  - 一箇年ノ内若干日又ハ若干月之ヨリ下ラサル程度ノ流量
- 五、風力ハ左ノ如ク區別ス
- 風力 名稱 意 義
- 靜穩 煙全ク直上シ樹葉動カサル程度ノモノ
  - 一 和風 樹葉ノ動ク程度ノモノ
  - 二 強風 樹木ノ大枝ノ動ク程度ノモノ
  - 三 颶風 家屋ノ大破ヲ來シ樹木ヲ倒ス程度ノモノ
  - 六、風向ハ左ノ如ク區別ス
  - 北、北東、東、南東、南、南西、西、北西

七、土地ノ標高ハ陸地測量部ノ基準ニ依ルモノトス  
 第五條 調査スヘキ水力地點、測水所、量水標、雨量觀測所及氣象觀測所ニハ以下數條ニ依リ逕信局ニ於テ番號ヲ附スヘシ  
 第六條 調査スヘキ水力地點ノ番號ハ各水系毎ニ上流ヨリ下流ニ向ヒ又支流ヨリ本流ヲ先キニシテ定ムヘシ元臨時發電水力調査局ニニ拘ラサルモノトス  
 第七條 測水所ノ番號ハ前條ニ準シテ別ニ定ムヘシ  
 第八條 量水標ノ番號ハ關係測水所ノ番號ト同一ニスヘシ但シ測水所ニ直接關係ナキ量水標アルトキハ先ツ其ノ他ノ量水標ニ測水所ト同一ノ番號ヲ附シタル後之ヲ追ヒ前條ノ例ニ依ル番號ヲ附スヘシ

第九條 他官署設置ノ雨量又ハ氣象觀測所ノ番號ハ中央氣象臺使用ノモノニ依リ逕信局設置ノモノノ番號ハ第六條ニ準シ別ニ之ヲ定ムヘシ但シ雨量及氣象觀測所ハ同種ノモノト看做シテ番號ヲ附ス

第二章 踏査

第一節 通則

第十條 逕信局ハ本章ノ規定ニ依リ技師又ハ技手ヲシテ湯水量ヲ標準トシテ千馬力以上 水力地點ヲ除算スルヲ利用シ得ヘシト認ムル總テノ河川ヲ踏査セシムヘシ

第十一條 踏査ヲ爲ス者ハ陸地測量部出版五萬分ノ一地形圖(同圖ナ在リテハ之ニ準ス)ヲ以テ豫メ地形其ノ他ヲ充分ニ研究スヘシ

第十二條 踏査ニ依リ左記ノ地點及位置ヲ選定シ關係事項ノ概要ヲ調査スヘシ

- 一、調査スヘキ水力地點
- 二、測水所ノ位置

四、治水、灌溉、排水、舟筏、流木、漁業其ノ他ノ水利事業  
 五、水力地點表(取入口及放水口ノ地名、使用シ得ヘキ概定湯水量、概定能力、需要地トノ關係)

第三節 測水所及量水標ノ位置並種別ノ選定

第十六條 測水所ノ位置ハ水力地點ニ於テ利用シ得ヘキ水量ヲ調査シ得ルト同時ニ可成該河川ノ全體ニ亘リ其ノ流量變化ノ狀態ヲ窺知シ得ヘキ場所ニシテ尙可成左記各號ニ適合スルモノヲ選フヘシ

- 一、水流急激又ハ緩漫ニ失セサルコト
- 二、河身及河床ノ變化少キコト
- 三、潛流、逆流及瀦水ナキコト
- 四、水流眞直ナルコト
- 五、支流川ニ依リ不規則ナル水位ノ變化ヲ起ササルコト

第十七條 測水所ハ左ノ區別ニ依リ選定スヘシ  
 一、甲種測水所 最重要ナル水力地點ニ設ケ關係河川ノ流量ニ關スル基本的調査ヲ行フモノニシテ此ノ位置ニ於ケル測水ノ結果ハ當該河川及附近河川ノ流量變化ヲ代表シ得ヘキモノトス  
 二、乙種測水所 甲種ニ次キ重要ナル水力地點ニ設クルモノトス  
 三、丙種測水所 甲種及乙種測水所ニ於ケル測水ノ序ヲ以テ測水ヲ行フ程度ノモノトス  
 四、丁種測水所 甲種及乙種測水所ニ於ケル測水ノ序ヲ以テ測水ヲ行ヒ且水位觀測ヲ爲ササル程度ノモノトス

第十八條 量水標ハ甲種、乙種及丙種測水所附近ニハ必ス之ヲ建設スヘシ  
 測水地點ニ關係ナキ場所ニモ必要ニ應ジ之ヲ建設スルコトヲ得

三、量水標ノ位置

四、雨量又ハ氣象觀測所ノ位置

第二節 水力地點ノ選定及關係事項ノ調査

第十三條 調査スヘキ水力地點ハ別ニ定ムル場合ノ外湯水量標準ニテ有利ニ凡ソ一千馬力以上ヲ得ヘシト認メラルルモノヲ選定スヘシ  
 河川ノ下流ニ於テ低落差ノ地點ヲモ選定スヘシ  
 水力使用許可ノ地點ハ調査スヘキ水力地點トシテ選定セサルモノナルモ工事未著手ノモノニ限り序ヲ以テ簡略ナル調査ヲ爲スモノトス

第十四條 調査スヘキ水力地點ノ選定ニ關シ流域其ノ他ヲ概定スルニハ凡ソ左記ニ依ルヘシ  
 一、流域ハ陸地測量部出版五萬分ノ一地形圖ニ依リテ之ヲ定ム  
 二、流域ハ元臨時發電水力調査局調査ノ結果ヲ標準トシ流域内ノ雨量、地形、地質、林野狀態、沼湖ノ有無等ヲ參酌シテ之ヲ推定ス  
 三、落差ハ氣壓計又ハ掌準器ヲ用キテ測定ス  
 四、距離ハ步測又ハ之ニ類スル程度ノ方法ニ依リテ測定ス  
 五、治水、灌溉、排水、流木、舟行、漁業其ノ他ノ關係アルトキハ其ノ概略ヲ調査ス

第十五條 調査スヘキ水力地點ヲ選定シタルトキハ其ノ位置ヲ陸地測量部出版五萬分ノ一地形圖ニ記入シ左記各號ノ概要ヲ具シ速ニ本省ニ報告スヘシ  
 一、水系名及河川名  
 二、河川流域ノ地形、地質、林野狀態、沼湖ノ有無等  
 三、河川ノ狀況及流量ノ變化並利用シ得ヘキ範圍及其ノ落差

第十九條 適當ノ位置ニ他官署ノ量水標アルトキハ其ノ管理者ト協議ノ上可成之ヲ利用スヘシ

第二十條 量水標ヲ建設スヘキ位置ヲ定ムルニハ第十六條ニ準スル外尙可成左記各號ニ適合スル場所ヲ選フヘシ

- 一、測水所ト密接ナル關係ヲ有スルコト
- 二、出水、流木等ノ爲移動、流失又ハ破損ノ虞ナキ所ナルコト
- 三、附近ニ於テ適當ナル觀測者ヲ得ヘキコト
- 四、觀測ニ便利ナルコト

第四節 雨量又ハ氣象觀測所ノ位置及種別ノ選定

第二十一條 雨量又ハ氣象觀測所ハ左ノ區別ニ依リ選定スヘシ

一、雨量觀測所 降水量、風向、風力、天氣及雜象ノ觀測ヲナスモノ  
 二、氣象觀測所 前號ノ外氣溫及蒸發量ノ觀測ヲナスモノ  
 第二十二條 調査スヘキ水力地點アル河川及支流ノ各流域ニテ測水地點ノ有無ニ拘ラス少クとも一箇所以上ノ雨量觀測所又ハ氣象觀測所ヲ設置スルモノトス

第二十三條 他官署ノ觀測所ハ可成利用スヘシ  
 第二十四條 觀測所ノ位置ハ可成一箇所又ハ數箇所ニテ各測水所ノ流域内ニ於ケル氣象ヲ代表スヘキ場所ヲ選フヘシ  
 前項ノ位置ハ可成元臨時發電水力調査局ノ設置又ハ利用シタルモノニ依ルヘシ

第三章 氣象調査

第一節 通則

第二十五條 氣象調査ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ行フ

- 一、他官署設置ノ觀測所ニ於テ觀測シタル結果ヲ蒐集ス
- 本號ノ調査ハ本省之ヲ行フ但シ逕信局ニ分擔セシムルコトアル

ヘシ

二 逕信局設置ノ觀測所ニ於テ觀測ヲ爲シ其ノ結果ヲ整理ス  
本號ノ事項中觀測ハ觀測者ニ於テ行ヒ觀測ノ結果ノ整理ハ逕信局ニ於テ行フ但シ便宜地方測候所ニ委託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本省ノ承認ヲ受クヘシ

第二節 測量班掌理事項

第二十六條 觀測所ヲ設置スヘキ位置及種別ノ通告ヲ受ケタルトキハ速ニ觀測者ヲ豫選シ第四十二條ノ手續ヲ了シタル上觀測ノ設備ヲ爲スヘシ

第二十七條 觀測者ヲ豫選スルニハ可成郡役所、町村役場、學校、警察署、郵便局等官公署ノ職員中ニ之ヲ求ムヘシ

第二十八條 觀測者ヲ豫選シタルトキハ直ニ其ノ氏名、住所、職業、生年月及適當ト認ムル手當金額ヲ記載シタル報告書ヲ作製シ逕信局ニ提出スヘシ

前項ノ豫定手當金額規定額以上ナルトキハ其ノ事由ヲ詳記スヘシ  
第二十九條 雨量計、蒸發計、寒暖計及日時計ハ本省ヨリ交付ス百葉箱ハ計ヲ摺附クヘシ

山間僻地等交通不便ナル所ニ在リテハ必要ニ依リ日時計ヲ設置スヘシ  
第三十條 雨量計、蒸發計、寒暖計及日時計ハ本省ヨリ交付ス百葉箱ハ第一號圖ニ依リ適宜製作セシムヘシ

第三十一條 雨量計、蒸發計、百葉箱及日時計ハ開測ニシテ障礙物無ク通風良キ平地ヲ選ヒテ設置スヘシ  
第三十二條 雨量計ハ第二號圖ニ依リ半ハ地中ニ埋メ込ミ頂部ハ地

第三節 觀測者掌理事項

第四十條 觀測者ハ別ニ定ムル雨量又ハ氣象觀測者心得ニ依リ左記ノ觀測ヲ爲シ野帳、第五號及第二依リ雨量日表用第一號又ハ氣象日表用第二號ヲ作製シ逕信局ニ提出スヘシ

一、降水量ノ觀測

二、風向及風力ノ觀測

三、天氣及雜象ノ觀測

四、氣温ノ觀測 雨量觀測者ハ本

五、蒸發量ノ觀測 雨量觀測者ハ本

第四節 逕信局掌理事項

第四十一條 逕信局ニ於テ設置スヘキ觀測所ノ位置及種別ヲ選定シタルトキハ之ヲ測量班ニ通告スヘシ

第四十二條 測量班ヨリ觀測者豫選ノ報告ヲ受ケタルトキハ審査ノ上囑託ノ手續ヲ爲シ測量班ニ通告スヘシ

第四十三條 測量班ヨリ觀測所設置ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ニ番號ヲ附シ一通テ本省ニ提出シ一通ヲ保存シ番號ハ遠ニ測量班ニ通告スヘシ

第四十四條 觀測者ヨリ提出スル雨量日表又ハ氣象日表ニ依リ雨量年表、氣温年表及蒸發量年表ヲ作製シ五月末日迄ニ本省ニ提出スヘシ

第四十五條 他官署設置雨量觀測所又ハ氣象觀測所ノ内利用スヘキモノヲ選定シタルトキハ陸地測量部出版五萬分ノ一地形圖及第二十號又ハ第二十一號用紙ヲ用キ第三十七條ニ準スル報告書ヲ作製シ本省ニ提出スヘシ

第四十六條 第二十五條第一號但書ニ依リ他官署設置ノ觀測所ニ於

上六寸六分(二十釐)ニ保チテ水平ニ摺附ケ周圍ニ三尺四方芝ヲ植附クヘシ

第三十三條 蒸發計ハ第三號圖ニ依リ雨量計ノ附近ニ摺附ケ其上縁ヲ水平ナラシメ高サハ雨量計ト同一ナラシムヘシ

第三十四條 百葉箱ハ北向ニ摺附ケ寒暖計ノ高サハ地面上三尺三寸トスヘシ

第三十五條 日時計ハ石造ノ臺上ニ水平且眞南北ニ固定シ側面ノ指針ハ其ノ地ノ緯度ニ相當スル度盛ヲ指サシムヘシ

第三十六條 觀測所ヲ設置シタルトキハ左記ノ方法ニ依リ可成其ノ經度、緯度及海拔高ヲ測定スヘシ但シ經緯度ハ凡ソ分位迄海拔高ハ凡ソ尺位迄トス

一、經度及緯度ハ陸地測量部出版五萬分ノ一地形圖アル部分ニ於テハ同圖ニ依ル  
二、海拔高ハ通常前號ノ地形圖ニ依リ同圖ナキ部分ニ於テハ水準據標ニ依ル

第三十七條 觀測所ノ設備ヲ終リ觀測ヲ開始シタルトキハ其ノ位置ヲ陸地測量部出版五萬分ノ一地形圖ニ記入シ尙第二十號又ハ第二十一號用紙ニ水系、河川、觀測所所在地、設備ノ説明、經度、緯度、海拔高設置年月日、觀測開始年月日、觀測者ノ氏名、住所、職業、生年月、手當金額及觀測所附近ノ人家、道路、其ノ他ノ築造物、樹木、高地、田畑等ノ狀況ヲ記載シタル報告書ニ通テ作製シ逕信局ニ提出スヘシ

第三十八條 觀測器具又ハ設備破損ノ報告ヲ受ケタルトキハ逕信局ノ指揮ヲ承ケ速ニ修理又ハ交換ヲ爲スヘシ

第三十九條 測量班員ハ出張ノ序ヲ以テ觀測所ヲ觀察シ觀測器具、時計其ノ他ノ設備ヲ検査スヘシ

ケル觀測ノ結果ヲ逕信局ニ於テ蒐集スル場合ニ在リテハ雨量年表、氣温年表及蒸發量年表ヲ作製シ五月末日迄ニ本省ニ提出スヘシ

第四十七條 觀測者ヨリ觀測器具又ハ設備ノ修理ノ請求アリタルトキハ直接又ハ測量班ヲシテ修理又ハ交換セシムヘシ

第四十八條 逕信局ハ技師又ハ技手出張ノ序ヲ以テ一年二回以上管轄區域内ニ於ケル逕信局設置觀測所ノ設備ヲ検査セシムヘシ

第五節 本省掌理事項

第四十九條 第二十五條第一號但書ニ依ル場合ヲ除クノ外他官署設置ノ觀測所ニ於ケル觀測ノ結果ヲ蒐集シ雨量年表、氣温年表及蒸發量年表ヲ作製スルモノトス

第五十條 逕信局ヨリ提出スル各報告書、雨量年表、氣温年表、蒸發量年表及前條ニ依リ作製スル各年表ヲ保存シ雨量年表、雨量圖其ノ他氣象ニ關スル圖書ヲ作製スルモノトス

第四章 水位觀測

第一節 通則

第五十一條 水位觀測ハ量水標ニ依リ之ヲ行フ  
量水標ハ一般ニ普通量水標ヲ用キ河川流量ノ調査上特ニ重要ナル場所ニ在リテハ自記量水標ヲ用ウルモノトス

第二節 測量班掌理事項

第一款 通則

第五十二條 量水標ヲ建設スヘキ位置ノ通告ヲ受ケタルトキハ水位觀測者ヲ豫選シ第七十八條ノ手續ヲ了シタル上量水標ヲ建設スヘシ

第五十三條 觀測者ヲ豫選スルニハ可成郡役所、町村役場、學校、警察署、郵便局等官公署ノ職員又ハ河川ニ關係アル者ノ内ニ之ヲ求ムヘシ

第五十四條 觀測者ヲ派遣シタルトキハ直ニ其ノ氏名住所職業生年月及適當ト認ムル手當金額並量水標ト住所トノ距離道路ノ狀態等ヲ記載シタル報告書ヲ作製シ逕信局ニ提出スヘシ

前項ノ確定手當金額規定額以上ナルトキハ其ノ事由ヲ詳記スヘシ

第五十五條 量水標ヲ建設シ又ハ他官署設置ノ量水標ヲ利用シタルトキハ直ニ既往ノ事實里人ノ記憶又ハ口碑等ニ依リ既往ノ最大洪水位及最大洪水位並毎年一、二回起ル出水時ニ於ケル水位ヲ調査シタル報告書ヲ作製シ逕信局ニ提出スヘシ

第五十六條 量水標ノ建設ヲ終リ觀測ヲ開始シタルトキ又ハ他官署設置ノ量水標利用ニ關スル手續ヲ了シタルトキハ其ノ位置ヲ陸地測量部出版五萬分ノ一地形圖ニ記入シ第二十二號用紙ニ水系河川、量水標ノ形狀寸法簡數設置年月日觀測開始年月日設置地名零點高、觀測者ノ氏名住所職業生年月手當金額、量水標附近ノ河川ノ狀況、河川築造物等ヲ記載シタル報告書二通ヲ作製シ逕信局ニ提出スヘシ

第五十七條 他官署ノ量水標ヲ利用スル場合ニハ可成既往ノ水位日表ヲ蒐集スヘシ

第五十八條 觀測者ヨリ提出シ又ハ前條ニ依リ蒐集シタル水位日表及高水位表ハ第百二十六條ニ依リ作製スヘキ水位流量年表ニ記入シ水位日表及高水位表ハ一箇年分毎ニ取纏メ三月末日迄ニ逕信局ニ提出スヘシ

第五十九條 觀測者ヨリ量水標ノ移動流失又ハ破損ノ報告ヲ受ケタルトキハ速ニ修理又ハ新設シ其ノ要領ヲ記載シタル報告書二通ヲ作製シ逕信局ニ提出スヘシ

第六十條 測量班員ハ出張ノ序ヲ以テ量水標ヲ觀察シ觀測ノ検査ヲ爲シ且水準線標ニ依リ量水標ニ異動ナキヤ否ヤヲ檢照スヘシ

第六十七條 親柱ハ五寸角以上ノ木材トス但シ場合ニ依リ石材又ハ鐵材ヲ使用スルコトヲ得

親柱ノ左右及背面ハ赤色ペンキヲ以テ塗り左ノ文字ヲ白書スヘシ

上流ニ面セル側 大正何年何月何日何逕信局

下流ニ面セル側 何川水系第何號量水標何村大字何字何

第六十八條 親柱ハ左ノ方法ノ一ニ依リ堅固ニ建設スヘシ

一、「ガールト」ニテ橋脚、橋臺、護岸、閘門、岩石等ニ取附クルコト

二、地盤堅固ナルトキハ河床ヲ掘鑿シ親柱ヲ凡ソ三尺以上埋メ込ムコト

三、地盤堅固ナラサルトキハ河床ニ土臺杭ヲ打込ミ之ニ取附ケ又ハ河床ヲ掘鑿シ前條ノ如ク親柱ヲ埋メ込ミ泥濘土等ニテ周圍ヲ固ムルコト

第六十九條 量水標ハ河岸ノ形狀ニ依リ傾斜シテ建設スルコトヲ得此ノ場合ニハ直ニ垂直高ヲ讀ミ得ル標目盛ヲ施スヘシ

第七十條 量水標ハ場合ニ依リ數段ニ分チ横斷線上ニ建設スルコトヲ得

第七十一條 量水標ノ目盛板ハ幅五寸、厚サ八分、長サ六尺乃至十二尺ノ木材トシ第四號圖ニ依リ目盛ヲ刻ミ白赤黒ノペンキヲ以テ明瞭ニ塗り分クヘシ

第七十二條 量水標ニハ必要ニ應ジ漂流物其ノ他ノ障害ヲ防禦スル裝置ヲ施スヘシ

第七十三條 量水標零點ノ位置ハ最大洪水位以下トスヘシ

第七十四條 逕信局設置ノ量水標カ他官署ニ屬スル量水標ニ接近セル場合ニハ相互ノ零點高ノ差ヲ測定スヘシ

第七十五條 量水標ノ零點高ハ附近ノ水準線標ニ依リ測定スヘシ量水標ノ附近ニハ岩石切株其ノ他移動ノ虞ナキモノヲ選ビ之ヲ準水準線標トナスヲ便トス

第三節 觀測者掌理事項

第七十六條 觀測者ハ別ニ定ムル水位觀測者心得ニ依リ左記ノ觀測ヲ爲シ野帳第七號ニ依リ水位日表第三號及高水位表第四號ヲ作製シ測量班ニ提出スヘシ

一、毎日ノ觀測

二、高水時ノ觀測

第四節 逕信局掌理事項

第七十七條 逕信局ニ於テ設置スヘキ量水標ノ位置ヲ選定シタル時及利用スヘキ他官署設置ノ量水標ヲ選定シ之ニ關スル協定ヲ遂ケタルトキハ之ヲ測量班ニ通告スヘシ

第七十八條 測量班ヨリ觀測者豫選ノ報告ヲ受ケタルトキハ審査ノ上囑託ノ手續ヲ爲シ測量班ニ通告スヘシ

第七十九條 測量班ヨリ高水時等ノ報告ヲ受ケタルトキハ速ニ高水時ノ觀測ヲ爲スヘキ水位及時間ヲ決定シ測量班ヲ通シテ觀測者ニ通告スヘシ

第八十條 必要ト認ムルトキハ毎日ノ觀測ヲ爲スヘキ時刻ヲ特定シ測量班ヲ通シテ觀測者ニ通告スヘシ

第八十一條 測量班ヨリ第五十六條ニ依ル報告ヲ受ケタルトキハ之ニ番號ヲ附シ且高水時ノ觀測ヲ爲スヘキ水位及時間ヲ記入シタル上一通ヲ本省ニ提出シ一通ヲ保存シ番號ハ速ニ測量班ニ通告スヘシ

第二款 橫斷線及橫斷測量

第六十一條 量水標ヲ建設シ又ハ他官署設置ノ量水標ヲ利用シタルトキハ之ヲ通シテ流身ニ直角ナル橫斷線ヲ設定シ之ヲ保存スヘシ

第六十二條 前條ノ橫斷線ノ位置ヲ示ス爲洪水位以上ニ於テ左右兩岸ニ第五號圖ニ依ル水位觀測所橫斷線標ヲ設置スヘシ河岸岩石ニシテ崩壞移動ノ虞ナキトキハ第六號圖ニ依リ記號ヲ岩面ニ刻シ據標ニ代フルコトヲ得

第六十三條 橫斷線ヲ設定シタルトキハ左記各號ニ依リ橫斷測量ヲ行フヘシ

一、左右兩岸共最大洪水位以上相當ノ高サニ及ホスコト

二、水中ニ於テハ測深桿又ハ測錘、陸上ニ於テハ水準儀ヲ用キテ測量スルコト

三、水深測量ヲ爲ストキハ量水標ニ依リ常ニ水位ヲ觀測シ水深測量ノ結果ヲ更正スルコト

四、水深測量ノ水平距離ハ凡ソ六尺乃至十二尺トシ河底整一ナル所ニ在リテハ之ヲ疎ニシ凹凸多キトキハ之ヲ密ニスルコト

第六十四條 橫斷測量ヲ終リタルトキハ第十四號用紙ヲ用キ水位觀測所橫斷面圖正副二通ヲ作製シ速ニ逕信局ニ提出スヘシ縮尺ハ河川ノ大小ニ依リ百五十分ノ一、三百分ノ一又ハ六百分ノ一トス

第六十五條 出水等ノ爲橫斷面ニ變化ヲ生シタルトキハ其ノ都度速ニ橫斷測量ヲ行ヒ前條ノ橫斷面圖正副二通ヲ作製シ逕信局ニ提出スヘシ

第三款 普通量水標ノ仕様

第六十六條 量水標ヲ建設スルニハ親柱ヲ建テ之ニ目盛板ヲ釘附スヘシ

第七十四條 逕信局設置ノ量水標カ他官署ニ屬スル量水標ニ接近セル場合ニハ相互ノ零點高ノ差ヲ測定スヘシ

第七十五條 量水標ノ零點高ハ附近ノ水準線標ニ依リ測定スヘシ量水標ノ附近ニハ岩石切株其ノ他移動ノ虞ナキモノヲ選ビ之ヲ準水準線標トナスヲ便トス

第三節 觀測者掌理事項

第七十六條 觀測者ハ別ニ定ムル水位觀測者心得ニ依リ左記ノ觀測ヲ爲シ野帳第七號ニ依リ水位日表第三號及高水位表第四號ヲ作製シ測量班ニ提出スヘシ

一、毎日ノ觀測

二、高水時ノ觀測

第四節 逕信局掌理事項

第七十七條 逕信局ニ於テ設置スヘキ量水標ノ位置ヲ選定シタル時及利用スヘキ他官署設置ノ量水標ヲ選定シ之ニ關スル協定ヲ遂ケタルトキハ之ヲ測量班ニ通告スヘシ

第七十八條 測量班ヨリ觀測者豫選ノ報告ヲ受ケタルトキハ審査ノ上囑託ノ手續ヲ爲シ測量班ニ通告スヘシ

第七十九條 測量班ヨリ高水時等ノ報告ヲ受ケタルトキハ速ニ高水時ノ觀測ヲ爲スヘキ水位及時間ヲ決定シ測量班ヲ通シテ觀測者ニ通告スヘシ

第八十條 必要ト認ムルトキハ毎日ノ觀測ヲ爲スヘキ時刻ヲ特定シ測量班ヲ通シテ觀測者ニ通告スヘシ

第八十一條 測量班ヨリ第五十六條ニ依ル報告ヲ受ケタルトキハ之ニ番號ヲ附シ且高水時ノ觀測ヲ爲スヘキ水位及時間ヲ記入シタル上一通ヲ本省ニ提出シ一通ヲ保存シ番號ハ速ニ測量班ニ通告スヘシ

第八十二條 測量班ヨリ横断面圖ノ提出アリタルトキハ之ヲ檢査シ正本ヲ本省ニ提出シ副本ヲ保存スヘシ

第八十三條 測量班ヨリ第五十九條ニ依ル報告ヲ受ケタルトキハ一通ヲ本省ニ提出シ一通ヲ保存スヘシ

第八十四條 逓信局ハ技師又ハ技手出張ノ序ヲ以テ一年二回以上量水標ヲ檢査セシムヘシ

第五章 流量調査

第一節 測量班管理事項

第一款 測水所ノ設置

第八十五條 測水所位置ノ通告ヲ受ケタルトキハ測水ノ設備ヲ爲シ且其ノ位置ニ於テ流身ニ直角ナル横斷線ヲ設定シ之ヲ保存スヘシ

第八十六條 前條ノ横斷線ノ位置ヲ示ス爲洪水位以上ニ於テ左右兩岸ニ第七號圖ニ依ル測水所横斷線標ヲ設置スヘシ河岸岩石ニシテ崩壞移動ノ虞ナキトキハ第八號圖ニ依ル記號ヲ岩面ニ刻シ據標ニ代フルコトヲ得

第八十七條 測水所ヲ設置シタルトキハ其ノ位置ヲ陸地測量部出版五萬分ノ地形圖ニ記入シ第二十三號用紙ニ水系、河川、設置地名、種別、測水設備、關係水力地點番號、設置年月日及附近ノ河川ノ狀況、河川築造物等ヲ記載シタル報告書二通ヲ作製シ逓信局ニ提出スヘシ

第二款 測水作業

第一 通則

第八十八條 測水作業ハ洪水時ノミナラス低水時ニ互リ可成異リタル水位ニ就キ之ヲ行フヘシ

第八十九條 一年ヲ通シテ行フヘキ測水回數左ノ如シ

一、甲種測水所 三十六回以上

流速計ノ回轉力一様トナルヲ待チ六十秒以上ノ讀ミヲ取ルヘシ

第九十七條 流速計ヲ使用スルトキハ一般ニ水平距離六尺以内ニ於テ適當ノ距離毎ニ垂線ヲ下シ各垂線ニ於テ水深五寸乃至一尺毎ニ流速ヲ測定スヘシ

各垂線ノ距離及各垂線中流速ヲ測定スヘキ點ノ間隔ハ河川ノ大小及性質ニ依リ前項ノ二倍以内ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第九十八條 重要ナラサル測水所ニ於テ極メテ短時間ニ測水スルトキハ前條ニ規定スル各垂線ニ於テ表面ヨリ水深ノ二割及八割ニ相當スル點又ハ六割ニ相當スル點ニ於ケル流速ノミヲ測定スルコトヲ得

第九十九條 流速計ハ使用後充分ニ掃除シ且時々他ノ流速計ト比較シ又ハ適宜ノ方法ニ依リ係數ニ異動ナキヤ否ヤヲ檢査スヘシ係數ニ異動ヲ生シタル虞アルモノハ逓信局ニ送付スヘシ

第一百條 流速計ハ係數ノ異動ノ有無ニ抱ラス檢査ノ爲毎年一回逓信局ニ送付スヘシ

二、計算

第一百一條 流速ハ各流速計ニ就キ本省ノ指定スル係數ニ依リテ之ヲ求ムヘシ

第一百二條 流量ハ通常左記第一號ニ依リ算出シ精密ヲ要スル場合ニハ更ニ第二號又ハ第三號ニ依リ之ヲ檢照スヘシ

一、第九十七條ニ規定スル垂線ニ於ケル平均流速ヲ計算シ之ヲ垂線ノ中間ノ垂線ニテ界セラルル面積ニ乘シ是等ノ總和ヲ求ム但シ該面積ヲ界スル垂線ノ位置ハ必スシモ流速ヲ測定シタル垂線間ノ中央ナルコトヲ要セス流速分布ノ狀態ニ依リテハ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

二、乙種測水所 二十回以上

三、丙種及丁種測水所 五回以上

第九十條 測量班ノ擔當區域廣大ニシテ全測水所ニ互リ前條ノ規定回數ヲ實施スルコト困難ナルモノハ逓信局ノ承認ヲ得テ擔當區域ヲ二分シ各年交互ニ一區域内ノ甲乙種測水所ノ測水回數ヲ減スルコトヲ得但シ丙種測水所ノ測水回數ヨリ減スルコトヲ得ス

第九十一條 測水ニ際シテハ關係量水標ニ於テ精密ニ水位ヲ觀測シ之ト同時ニ適宜ノ方法ニ依リ可成水面勾配ヲモ測定スヘシ

第九十二條 測水ハ流速計測法又ハ堰測法ニ依リ精密ニ之ヲ行フヘシ已ムテ得サルトキハ浮子測法、公式測法ニ依ルコトヲ得

第九十三條 測水ノ結果ハ有效數字ヲ三位迄求ムヘシ

第二 流速計測法

一、實測

第九十四條 流速計ハ流速毎秒凡ソ一尺以上ノ場所ニ使用スヘシ

第九十五條 流速計ノ使用方法ハ場所ノ狀況ニ應シ可成左記各號ノ

一、渡渉測定

二、舟上又ハ筏上測定

三、橋上測定

四、吊箱測定

五、索繩測定

六、水上測定

前項第一號又ハ第二號ノ方法ニ依ルトキハ流速計ハ使用者ノ身體又ハ舟筏ヨリ一尺以上上流ニ保ツヘシ

第九十六條 流速ヲ測定セムトスル位置ニ流速計ヲ下シタルトキハ

二、横断面内ニ數箇ノ水平線ヲ取リ此ノ線内ニ於ケル流速分布ヲ表ハス曲線ヲ描キ相隣レル水平線ニ於ケル水平流速曲線ニテ圖マレタル面積ヲ平均シ之ニ二ツノ水平線間ノ距離ヲ乘シ是等ノ總和ヲ求ム

三、横断面中流速等シキ點ヲ連ナル曲線ヲ描キ各等流速線内ノ面積ヲ測リ順次ニ相隣レル二箇ノ等流速線内ノ面積ヲ平均シ之ニ其ノ二箇ノ等流速線ノ流速ノ差ヲ乘シタルモノヲ作り其ノ總和ヲ求ム

第一百三條 各垂線内ノ平均流速ハ通常左記第一號ニ依リ算出シ第九十八條ニ依ル實測ヲ爲シタルトキニ限リ第二號又ハ第三號ノ方法ニ依ルヘシ

一、深サヲ縱距トシ各深サニ相當スル流速ヲ横距トシ各點ヲ置キ日測ニテ此等ノ點ヲ連ナル曲線ヲ描キ流速曲線ヲ描キ求積器ヲ用キテ曲線ト縱横軸トノ間ノ面積ヲ計リ之ヲ水深ニテ除ス

二、表面ヨリ水深ノ二割及八割ノ點ニ於ケル流速ヲ平均ス

三、表面ヨリ水深ノ六割ノ點ニ於ケル流速ニ依ル

第三 堰測法

第一百四條 河川小ニシテ流速計ヲ使用スルコト能ハサル場合ニハ堰測法ニ依ルヘシ

第一百五條 堰ハ開口矩形ニシテ三邊銳角ノ縁ヲ有スルモノトシ通常

左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一、水頭ハ三寸乃至三尺タルコト

二、水頭ハ堰ノ所ニ於テ水深ノ四分ノ一以下タルコト

三、堰開口ノ幅ハ水頭ノ三倍以上タルコト

四、堰ノ幅ハ水頭ノ九倍以上タルコト

五、堰ノ上流ニ於ケル河川ノ横斷面積ハ少クとも堰開口ノ七倍以上ナルコト

六、堰ノ上流ニ於テハ流速少ク且水流平穩ナルコト

七、堰ハ河流ニ直角ニシテ且水平ナルコト

八、堰ニハ漏水ナキコト

水頭ハ堰ノ上流六尺以上ノ所ニ於テ測定スヘシ

第六條 流量ハ左ノ公式ニ依リテ計算スヘシ

$$Q = 3.33(L - 0.2H)H^{\frac{3}{2}}$$

$$Q = \text{流量(個)}, L = \text{堰開口ノ幅(R)}, H = \text{水頭(R)}$$

第七條 流量ヲ計算スルニ當リ第五條各號ノ條件ヲ具備セス接近速度ヲ認ムル場合ニハ左ノ公式ニ依リテ之ヲ計算スヘシ

$$Q = 3.33(L - 0.2H) \left\{ (H + \frac{V^2}{2g})^{\frac{3}{2}} - (\frac{V^2}{2g})^{\frac{3}{2}} \right\}$$

$$V = \text{接近速度(毎秒R)}, g = 92.$$

接近速度ハ前條ノ公式ニ依リテ求メタル流量ヲ水頭ヲ測定セル所ニ於ケル河川ノ横斷面積ニテ除シタルモノヲ使用スヘシ、精密ヲ要スル場合ニハ斯クシテ得タル流量ヲ再ビ河川ノ横斷面積ニテ除シ接近速度ヲ求メ之ヲ本條ノ公式ニ依リテ計算スヘシ

第四 浮子測法

第八條 浮子測法ハ河川ノ横斷面略ニシテ流身直線ナル場所ニ於テ行フヘシ

第九條 浮子ハ表流浮子又ハ桿浮子ヲ使用スヘシ桿浮子ノ水中ニ入ル部分ノ長さハ水深ノ四分ノ三ヨリ大ナルコトヲ要ス

第十條 横斷線ノ上流及下流ニ於テ河身ト直角ヲナス二個ノ横斷線ヲ定メ浮子ヲ流スヘキ區間ヲ決定シ該横斷線上ニ適當ノ目標ヲ建テ一人宛觀測者ヲ置キ相互ニ信號シテ浮子カ各線ヲ通過スル時

$$I. V = \frac{123.044}{1 + \frac{1}{\sqrt{R}}} \sqrt{BI}$$

$$II. V = \frac{131.66}{1 + (41.782 + \frac{0.00282}{I}) \frac{1}{\sqrt{R}}} \sqrt{BI}$$

V = 平均流速(毎秒R), R = 水深(R), I = 水面勾配  
γ = 定數ニシテ 2.0—3.5, n = 定數ニシテ 0.03—0.05

第六 結果ノ整理

第八條 測水ヲ爲シタルトキハ現場ニ於テ野帳(第八號乃至第十號用紙)ニ測定セル事項ヲ記入シ尙水系、河川、測水所番號及位置關係並水標番號、測水年月日及測水開始終了ノ時刻、測邊ノ性質、測水中ノ水位、天氣、風向、風力其ノ他特記スヘキ事項ヲ記載スヘシ

第九條 野帳ニハ明瞭ニ記入シ他日何人カ之ヲ見ルモ不明ノ點ナキコトヲ期スヘシ

第十條 野帳ニ記載シタル材料ヨリ流量ヲ計算シタルトキハ第十五號用紙ヲ用キ流量測定年表ニ之ヲ記入スヘシ

第十一條 毎年一回以上各測水所ニ於ケル流量曲線トノ關係ヲ表スルテ整理スヘシ流量曲線ノ整理ハ測水並之ト同時ニ行ヘル水位觀測ノ結果ニ依ルモノトス

第十二條 測水所ノ河床及河川ノ斷面ニ變化ヲ生セサル間ハ流量曲線ノ整理ニハ測水ノ結果全部ヲ使用スヘシ河床及河川ノ斷面ニ變化ヲ生シタルトキハ變化ノ前後ニ對シ各別ニ流量曲線ヲ整理スヘシ

間ヲ測定スヘシ

第十一條 前條ノ浮子ヲ流スヘキ區間ノ長さハ百尺以上、浮子カ該區間ヲ通過スルニ要スル時間ハ五十秒以上タルヘシ但シ已ムテ得サルトキハ、更ニ區間ノ長さ及時間ヲ短縮スルコトヲ得

第十二條 浮子ハ、第百十條ノ區間ノ上部横斷線ノ上流五間以上ノ所ニ於テ横斷線内數箇所ニ投下スヘシ

第十三條 浮子ノ通過シタル線ニ於ケル垂線内ノ平均流速ハ左ノ公式ニ依リ算出スヘシ

$$V = 0.8 \frac{L}{t}$$

一、表流浮子ヲ用キタル場合

$$V = \frac{L}{t} (1.012 - 0.016 \sqrt{\frac{d'}{L}})$$

V = 平均流速(毎秒R), L = 區間ノ長さ(R)

t = 浮子カ區間ヲ通過スルニ要シタル時間(秒)

d' = 全水深(R), d = 桿浮子ノ下端ヨリ水底迄ノ距離(R)

第十四條 各垂線内ノ平均流速ヲ求メタルトキハ、第百二條第一號ニ準シ流量ヲ算出スヘシ

第五 公式測法

第十五條 公式測法ハ横斷面一様ニシテ流身直線ヲ爲シ且河底ノ勾配一様ナル所ニ於テ行フヘシ

第十六條 水面勾配ハ横斷線附近五十間以上ニ互リ精密ニ之ヲ測定スヘシ

第十七條 横斷面内ノ平均流速ハ次ノ公式ニ依リ算出シ其ノ結果ノ中最適當ト認ムルモノヲ取リ之ニ横斷面積ヲ乘シ流量ヲ算出スヘシ

第二十三條 流量曲線ノ整理ハ時宜ニ依リ逓信局ニ依頼スルコトヲ得

第二十四條 流量曲線ハ第十六號用紙ニ之ヲ描クヘシ重要ナル測水所ニ在リテハ、參考ノ爲該用紙ニ流量曲線ノ外左ノ曲線ヲ描クヲ可トス

斷面面積

一、水位ノ高低ニ依ル横斷面積ノ變化ヲ表ハス曲線

二、水位ノ高低ニ依ル平均流速ノ變化ヲ表ハス曲線

平均流速曲線

第二十五條 流量曲線ヲ整理シタルトキハ、速ニ逓信局ニ提出シテ審査ヲ受クヘシ

第二十六條 流量曲線ノ整理及審査ヲ終リタルトキハ、水位日表及其ノ曲線ニ依リ毎日ノ流量ヲ求メ第十七號用紙ヲ用キ水位流量年表ヲ作製スヘシ

第二十七條 水位流量年表ニ依リ第十八號及第十九號用紙ヲ用キ水位流量圖及流況曲線圖ヲ作製スヘシ

第二十八條 水位流量圖ニハ左ノ各線及之ニ相當スル流量ヲ記入スヘシ

- 一、平水流量線及平水流量
- 二、低水流量線及低水流量
- 三、湧水流量線及湧水流量
- 第二十九條 流況曲線圖ニハ左ノ各線及流量ヲ記入スヘシ
- 一、不足水流量線
- 二、能率曲線
- 三、平水流量
- 四、低水流量
- 五、湧水流量

第三百三十條 流量測定年表、流量曲線圖、水位流量年表、水位流量圖及流況曲線圖ハ各正副二通ヲ作製シ記入並流量ノ計算ヲ終リタル測水野帳ト共ニ三月末日迄ニ逕信局ニ提出スヘシ

第二節 逕信局掌理事項

第三百三十一條 測水所ノ位置及種別ヲ選定シタルトキハ之ヲ測量班ニ通告スヘシ

第三百三十二條 測量班ヨリ測水所設置ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ニ番號ヲ附シ一通ヲ本省ニ提出シ一通ヲ保存シ番號ハ速ニ測量班ニ通告スヘシ

第三百三十三條 測量班ヨリ第二百二十五條ニ依リ流量曲線圖ノ提出アリタルトキハ速ニ之ヲ審査シタル上意見ヲ附シテ返付スヘシ

第三百三十四條 測量班ヨリ流量測定年表、流量曲線圖、水位流量年表、水位流量圖、流況曲線圖及測水野帳ノ提出アリタルトキハ之ヲ檢閲シ各圖表ノ正本ハ五月末日迄ニ本省ニ提出シ野帳及副本ハ之ヲ保存スヘシ

第三百三十五條 測量班ヨリ流速計ノ送附ヲ受ケタルトキハ直ニ本省ニ移送シ測量班ヘハ代品ヲ送付スヘシ

第三百三十六條 流速計ハ係數ノ異動ノ有無ヲ拘ラス檢定ノ爲毎年一回本省ニ送附スヘシ

第三節 本省掌理事項

第三百三十七條 逕信局ヨリ測水所設置ノ報告ヲ受ケタルトキハ官公報ニ依リ告示ス

第三百三十八條 逕信局ヨリ提出スル各報告書及圖表ヲ整理シ之ヲ保管ス

第三百三十九條 流速計ハ本省ニ於テ檢定ス

元臨時發電水力調査局其他諸官署ニ於テ設置シタル水準據標ハ可成之ヲ利用スヘシ

第四百四十五條 水準據標ハ交通其ノ他ニ障害ナキ場所ヲ選ヒテ設置スヘシ

第四百四十六條 水準據標ノ標高ハ陸地測量部設置ノ水準據標ニ依リ之ヲ測定スヘシ

第四百四十七條 水準據標ノ標高ヲ測定スルニハ二回以上水準測量ヲ行ヒ其ノ結果ヲ平均スヘシ但シ二回ノ測量ニ於ケル誤差ハ一里ニ付五分以内トス

第四百四十八條 水準據標ノ番號ハ測量班ニ於テ適宜之ヲ附スヘシ但シ元臨時發電水力調査局其ノ他諸官署設置ノモノニアリテハ其ノ番號ヲ使用スヘシ

第四百四十九條 水準據標ヲ設置シ又ハ元臨時發電水力調査局其ノ他諸官署ニ於テ設置シタルモノヲ利用シタルトキハ其ノ位置ヲ陸地測量部出版五萬分ノ一地形圖ニ記入シ向第二十四號用紙ニ水系、河川設置年月日所在地種類番號形狀寸法標高及附近ニ於ケル河川其ノ他ノ地物ノ狀況ヲ記載シタル報告書二通ヲ作製シ逕信局ニ提出スヘシ

第二款 河川縱斷測量

第五百十條 河川縱斷測量ハ河川ノ流身ニ沿ヒテ行フヘシ但シ水力地點ノ縱斷測量ヲ行フ場合ニハ必要ニ依リ豫定水路ノ中心線ニ沿ヒテ之ヲ行フコトヲ得

第五百十一條 縱斷面圖ニハ左記ノ事項ヲ記入スヘシ

- 一、河床ノ高低
- 二、湯水位、低水位、平水位、洪水水位線

第六章 地形測量

第一節 通則

第四百十條 地形測量ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ行フ

一、河川縱斷測量

二、水力地點平面測量

三、河川橫斷測量

第四百四十一條 河川縱斷測量ハ調査スヘキ水力地點ヲ選定シタル河川ニ就キ其ノ落差ヲ調査スル爲水力ヲ利用シ得ヘキ範圍ニ互リ之ヲ行ヒ河川縱斷面圖ヲ作製スルモノトス元臨時發電水力調査局ニ於テ實測シタル縱斷面圖アル部分ニ於テハ其ノ結果ヲ利用スルコトヲ得

第四百四十二條 水力地點平面測量及河川橫斷測量ハ選定水力地點中重要ナルモノニ就キ之ヲ行ヒ水力地點平面圖及河川橫斷面圖ヲ作製スルモノトス

第二節 測量班掌理事項

第一款 水準據標

第四百四十三條 常設水準據標ハ石材假設水準據標ハ木材トシ其ノ形狀寸法等ハ第九號圖又ハ第十一號圖ニ依ル

岩石又ハ堅固ナル築造物適當ノ場所ニアルトキハ之ニ第十號圖ノ記號ヲ附シテ水準據標ニ代フルコトヲ得

第四百四十四條 調査スヘキ水力地點ノ豫定取入口及放水口附近ニハ常設水準據標ヲ設置スヘシ其ノ間隔二千間以上ナルトキハ凡ソ二千間ニ一箇所ノ割合ヲ以テ假設水準據標ヲ設置スヘシ

前項ノ外河川縱斷測量ヲ行フ爲必要ナル位置ニハ水準據標ヲ設置スヘシ

三、水準據標ノ位置

四、置水標ノ位置

五、測水所ノ位置

六、選定水力地點豫定取入口及放水口

七、既設水力地點取入口及放水口

八、既許可未使用水力地點取入口及放水口

九、支派川又ハ用惡水路ノ分岐點

十、河川ヲ過キル行政區劃ノ境界(國、府、縣、市、町、村、大字)

十一、河川築造物(橋梁、堰、堤、樋、管、閘門、渡船場、棧橋、水車等)

十二、河床ノ地質(硬岩、軟岩、砂礫及玉石、泥土ノ別)

第五百五十二條 河床ノ高サハ水力地點ノ取入口ヨリ放水口ニ至ル區間ニ於テハ六十間又ハ三十間毎ニ之ヲ測定スヘシ

前項ノ區間外ニ在リテハ其ノ距離ヲ凡ソ二倍又ハ三倍ニスルコトヲ得

前二項ノ區間ニ於テ河床不規則ナル場所ニ在リテハ其ノ距離ヲ短縮スヘシ

第五百五十三條 縱斷測量ニハ水準儀ヲ使用スヘシ縱斷測量ノ誤差ハ一里ニ付一寸以内トス

第五百五十四條 縱斷面圖ハ左記ニ依リ第二十五號用紙ヲ用キテ作製スヘシ

一、水平縮尺 六千分ノ一

二、垂直縮尺 三百分ノ一

第三款 水力地點平面測量

第五百五十五條 平面測量ハ豫定取入口ノ上流約百間ヨリ豫定放水口ノ下流約百間ニ至ル區域ニ於テ河川ヲ中心トシ左右兩岸共洪水汎

距離外約三十間以上ニ及ホスヘシ但シ水路ノ位置概定セル水力地  
點ニシテ河川ニ沿ヒテ測量スル必要ヲ認メサル場合ニハ該水路ニ  
沿ヒテ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ區域外ニ於テ取入口放水口又ハ水路等ニ附帶シテ工事ヲ施  
スヘキ豫定位置又ハ發電所工事ニ依リテ影響ヲ受クヘキ場所アル  
トキハ是等ヲ包含セシムル爲メ其ノ區域ヲ擴張スヘシ

第六百五十六條 豫定水路河川ニ沿フトキハ平面測量ヲ水路ニ及ホシ  
水路中心線ヲ同圖ニ記入スヘシ

第六百五十七條 貯水池ヲ築造スヘキ場所ニ於テハ潰地全體ノ平面測  
量ヲ行フヘシ

第六百五十八條 三角測量ニ於ケル三角形ノ内角ノ和ノ誤差ハ一分以  
内檢基線ニ於ケル長サノ誤差ハ千五百分ノ一以內トス

第六百五十九條 折線測量ノ閉比ハ五百分ノ一以內角度ノ誤差ハ二十  
分以內トス

第六百六十條 平面圖ニハ左記ノ事項ヲ記入スヘシ

- 一、地形垂直二十尺又ハ四十尺毎ニ
- 二、行政區劃ノ境界線及名稱 府、縣、國、郡、市、
- 三、鐵道及道路 國道、縣道、
- 四、地目 針葉樹林、闊葉樹林、雜木林、竹林、
- 五、家屋其ノ他ノ築造物
- 六、河川及其ノ築造物 第五十一條第十一號ノ
- 七、沿岸ノ地質 第五十一條第十一號ノ
- 八、砂防工
- 九、測量線及測量基標 水準據標、三角點、測水所、橫斷線及同據標
- 十、雨量觀測所及氣象觀測所ノ位置

- 十一、壺水標ノ位置
- 十二、水流ノ方向
- 十三、洪水汎濫線

十四、既設及豫定水路中心線、取入口放水口、沈砂池、水槽、發電所、貯水池、  
餘水路等ノ位置

十五、礫北

十六、縮尺

前各號中著名ナルモノニハ其ノ名稱ヲ附記スヘシ

第六百六十一條 平面圖ハ左記ニ依リ正本ハ原圖紙ヲ用キ副本ハ「ト」  
「シ」ングラフ「バ」ヲ用キ作製スヘシ

一、用紙ノ幅二尺五寸

二、縮尺六千分ノ一

三、河流ノ方向ハ左方ヨリ右方ヘ流レルル如クスルコト

第四款 河川橫斷測量

第六百六十二條 橫斷測量ハ第五十五條ニ規定スル區域ニ於テ之ヲ  
行フヘシ但シ洪水汎濫線外ノ測量範圍ハ約二十間トス

第六百六十三條 橫斷測量ハ前條ノ範圍內ニ於テ河流六十間又ハ百二  
十間毎ニ一箇所ノ割合ヲ以テ之ヲ行フヘシ河川ノ狀態不規則ナル  
カ又ハ他ノ事由ニ依リ橫斷測量ヲ爲スノ必要アル箇所ニ於テハ前  
項ノ間隔ニ拘ラス之ヲ行フヘシ

第六百六十四條 橫斷面圖ニハ左記ノ事項ヲ記入スヘシ

- 一、河床及地面ノ高低
- 二、湧水位、低水位、平水位及洪水水位線
- 三、河床ノ地質 第五十一條第十一號ノ

第六百六十五條 橫斷測量ノ方法ニ關シテハ第六十三條ヲ適用ス

第六百六十六條 橫斷面圖ハ左記ニ依リ第二十六號用紙ヲ用キ作製ス

- 一、幅員凡ソ五十間未滿ナルトキハ 縮尺三百分ノ一
- 二、幅員凡ソ五十間以上ナルトキハ 縮尺六百分ノ一

第五款 圖面ノ整理

第六百六十七條 河川縱斷面圖、水力地點平面圖及河川橫斷面圖ニハ選

信局名、水系、河川名、水力地點番號、作製年月日及測量班長ノ官氏名ヲ  
記載スヘシ

第六百六十八條 前條ノ各圖ハ正副二通ヲ作製シ野帳ト共ニ選信局ニ  
提出スヘシ

第三節 選信局掌理事項

第六百六十九條 水力地點平面測量及河川橫斷測量ヲ行フヘキ地點ヲ  
決定シタルトキハ之ヲ本省ニ報告シ測量班ニ通告スヘシ

第七百七十條 測量班ヨリ水準據標設置ノ報告ヲ受ケタルトキハ檢閱  
ノ上一通ヲ本省ニ提出シ一通ヲ保存スヘシ

第七百七十一條 測量班ヨリ圖面及野帳ノ送附ヲ受ケタルトキハ之ヲ  
檢閱シ各圖ノ正本ヲ本省ニ提出シ副本及野帳ハ之ヲ保存スヘシ

第七百七十二條 選信局ハ技師又ハ技手出張ノ序ヲ以テ水準據標ヲ檢  
査セシムヘシ

第四節 本省掌理事項

第七百七十三條 選信局ヨリ提出スル報告書及圖面ヲ整理シ之ヲ保管  
ス

第七章 水力利用ニ關スル一般調査

第七百七十四條 選信局ハ本章ノ規定ニ依リ水力利用ニ關スル一般調  
査ヲ爲スヘシ

第十二章 調査ニ關スル規程

第七百七十五條 一般調査ハ別ニ定ムル準則ニ依リ水力調査ノ全期間  
ヲ以テ各河川ニ於テ發生シ得ヘキ全水力ヲ調査シ且各水力地點ニ

就キ水力ヲ發生セシムル各種ノ方法ヲ考究シ水力使用ノ目的ニ適  
應シテ實施スヘキ計劃ノ資料ヲ蒐集スルモノトス

第七百七十六條 一般調査ハ左記各號ニ依リ河川別ニ之ヲ行フヘシ

- 一、河川流域ノ狀況
- 二、河川ノ狀況及流量ノ變化
- 三、治水及水利事業トノ關係
- 四、河川ノ全水力
- 五、水力地點ニ於ケル水力ノ發生方法
- 六、其ノ他必要ナル事項

第七百七十七條 河川流域ノ狀況ハ左記各號ニ依リ調査スルモノトス

- 一、地形
- 二、地質
- 三、林野狀態 自然林、植林、原野、田畑ノ狀
- 四、氣象狀態 降水量、氣溫、蒸發量、風向及風力等
- 五、沼湖ノ狀況
- 六、湧水ノ狀況及其ノ原因
- 七、其ノ他ノ事項

第七百七十八條 河川ノ狀況及流量ノ變化ハ左記各號ニ依リ調査スル  
モノトス

- 一、河岸、河床ノ狀況及地質
- 二、水流ノ緩急
- 三、河川ノ水質、土砂及浮游物ノ狀況
- 四、調査期間ニ於ケル季節別及月別ニ依リ流量變化ノ狀況



- 五、流域面積一万里當リ湧水量、低水量、平水量、高水量及洪水量
  - 六、湧水時、低水時、平水時及出水時ニ於ケル河川ノ狀況
  - 七、結氷及流氷ノ狀況
  - 八、降水量ト流出量トノ關係
  - 九、天氣、氣溫、風向、風力、蒸發量等ト流出量トノ關係
  - 十、其ノ他ノ事項
- 第七十九條 治水及水利事業トノ關係ハ左記各號ニ依リ調査スルモノトス
- 一、治水事業ノ現況及將來ノ豫定計劃トノ關係
  - 二、水車ノ位置及使用水量
  - 三、灌漑田畑ノ種類及面積、灌漑用水ノ位置、各季ニ於ケル灌漑用水量
  - 四、上水道ノ位置及取入水量
  - 五、下水又ハ惡水ノ位置、水質及放出水量
  - 六、舟筏航行ノ概數、大サ、航行ノ時期及區域、運輸物資ノ種類、舟筏ニ要スル最小流量、水力工事施行ニ伴フ設備
  - 七、流氷ノ狀況、材積、木材ノ大サ、流氷ノ區域及時期、流氷ニ要スル最小流量、水力工事施行ニ伴フ設備
  - 八、漁業ノ狀況、方法、時期、魚族ノ種類、漁業ニ要スル最小流量、水力工事施行ニ伴フ設備
  - 九、許可水力地點ノ位置、使用水量、有效落差及馬力數等
  - 十、其ノ他ノ事項
- 第八十條 河川ノ全水力ハ各水力地點ノ湧水量、低水量及平水量ニ對スル馬力數並各水量ニ對スル一年間ノ平均馬力數ニ依リ調査スルモノトス

第八十一條 水力地點ニ於ケル水力發生方法ハ左記各號ニ依リ調査スルモノトス

- 一、水力地點ノ地形、地質及附近ノ狀況
  - 二、利用シ得ヘキ落差、落差ヲ取リ得ル場所及水位ノ變化ニ基ク落差ノ變化
  - 三、水力ニ使用シ得ヘキ水量ノ變化
  - 四、一年間ニ亙リ使用シ得ヘキ水量及落差ノ變化ニ依ル馬力數ノ變化
  - 五、貯水池ヲ設ケ得ル地形、貯水池設計ノ大要、貯水量及一年間ニ亙リ使用シ得ヘキ水量ノ變化、蓄水ノ影響
  - 六、水力ヲ發生シ得ヘキ各種ノ方法及其ノ水力工事設計ノ大要
  - 七、交通ノ便否、水力工事ノ難易、工用材料ノ所在地及運搬法
  - 八、湧水量及平水量ニ對スル土木工事費、發電所工事費及維持費、最モ經濟的ニ電力ヲ得ヘキ水量並之ニ對スル工事費及維持費ノ概算
  - 九、其ノ他必要ナル事項
- 第八十二條 低落差ヲ利用スヘキ地點ニ在リテハ前數條ノ外特ニ左記ノ事項ヲ調査スヘシ
- 一、地質
  - 二、流量變化ニ伴フ有效落差ノ變化
  - 三、水力工事ト他ノ事業、河川關係者等トノ關係
  - 四、水力工事中ニ於ケル河川締切方法等
- 第八十三條 前數條ノ調査ハ完成セル事項毎ニ順次本省ニ報告スヘシ
- 第八章 水力調査年報及水力調査書
- 第八十四條 本省ハ毎年水力調査ノ成績ヲ編纂シテ年報ヲ作製ス

水力調査ヲ完成シタルトキハ其ノ成績ヲ編纂シテ水力調査書ヲ作製ス

- 第八十五條 年報ハ曆年毎ニ編纂シ翌年九月末日迄ニ完成ス
- 第八十六條 本省ハ必要ニ應シ年報ノ外隨時各種調査ノ結果ヲ編纂ス

第九章 水力原簿

- 第八十七條 水力調査完了シタルトキハ逓信局及測量班ハ保管ニ係ル調査書類ヲ本省ニ提出スヘシ
- 第八十八條 本省ハ前條ノ調査書類ト既ニ送附ヲ受ケタル圖表類及元臨時發電水力調査局調査ノ圖表類トヲ併セ之ヲ整理シ水力原簿ヲ作製ス

第八十九條 水力原簿ハ左ノ五種ニ分ツ

- 一、水力地點原簿
- 二、氣象原簿
- 三、流量原簿
- 四、河川縱斷面原簿
- 五、水力地點地形原簿

第九十條 水力地點原簿ハ左ノ三部ニ分ツ

- 一、水力地點一覽圖
- 二、水力地點總括表
- 三、水力地點要項

第九十一條 氣象原簿ハ左ノ七部ニ分ツ

- 一、氣象原簿索引
- 二、觀測所位置一覽表及一覽圖
- 三、雨量年表
- 四、雨量異年表

- 五、雨量圖
- 六、蒸發量年表、蒸發量異年表及蒸發量圖
- 七、氣溫年表、氣溫異年表及氣溫圖
- 第九十二條 流量原簿ハ左ノ七部ニ分ツ

- 一、流量原簿索引
  - 二、流量標及測水所位置一覽表及一覽圖
  - 三、水位流量年表
  - 四、流量測定年表
  - 五、流量異年表
  - 六、流量曲線圖
  - 七、水位流量圖及流況曲線圖
- 第九十三條 河川縱斷面原簿ハ左ノ三部ニ分ツ
- 一、河川縱斷面原簿索引
  - 二、河川水準表
  - 三、河川縱斷面圖

第九十四條 水力地點地形原簿ハ左ノ四部ニ分ツ

- 一、水力地點地形原簿索引
- 二、平面圖
- 三、水力地點縱斷面圖
- 四、河川橫斷面圖

第九十五條 元臨時發電水力調査局調査圖表類ハ別ニ之ヲ保管ス

第九十六條 用紙及製圖例ハ別ニ頒布ス

第九十七條 水力調査ニ關係スル往復書類ニハ上封ニ「水力調査」ト朱書スヘシ

(附圖、用紙及製圖例省略)

(附錄) 附圖用紙及製圖例目錄

附圖		用紙		製圖例	
番號	名稱	番號	名稱	番號	名稱
一	百葉箱設計圖	一	雨量日表	一	陸地測量部出版 五萬分の一地形圖 記入例
二	雨量計設置圖	二	氣象日表	二	測圖記號
三	蒸發計設置圖	三	水位日表	三	河川縱斷面圖例
四	量水標目盛	四	高水位表	四	水力地點平面圖例
五	水位觀測所 橫斷線據標	五	雨量觀測野帳	五	河川橫斷面圖例
六	同記號	六	氣象觀測野帳	六	水位觀測所 橫斷面圖例
七	測水所橫斷線據標	七	水位觀測野帳		
八	同記號	八	流速計測水野帳		
九	常設水準據標	九	浮子測水野帳		
十	同記號	十	堰及公式測水野帳		
十一	假設水準據標	十一	雨量年表		
		十二	氣溫年表		
		十三	蒸發量年表		
		十四	水位觀測所橫斷面 圖(正副)		
		十五	流量測定年表		
		十六	流量曲線圖(正副)		
		十七	水位流量年表		
		十八	水位流量圖(正副)		
		十九	流況曲線圖(正副)		
		二十	雨量觀測所 設置報告書		
		二十一	氣象觀測所 設置報告書		

二雨量及氣象觀測者心得 雨量及氣象ノ觀測ハ水力調  
查上重要ナル事項ナルヲ以テ之カ觀測ニ當リテハ左記心  
得ニ據ラシメ以テ結果ノ正確且統一ヲ計レリ

雨量觀測者心得

一通則

- 第一 雨量觀測者ハ本心得ヲ熟讀シ誠實ニ其ノ任務ヲ盡スヘシ  
本心得ニ明記ナキ事項ニ就テハ測量班又ハ逓信局ニ問合スヘシ
- 第二 雨量觀測者ハ毎日午前十時左記ノ觀測ヲ爲シ其ノ結果ニ依リ  
雨量日表ヲ作製スヘシ  
一、降水量ノ觀測  
二、風向及風力ノ觀測  
三、天氣及雜象ノ觀測
- 第三 雨量日表ハ一箇月分毎ニ取纏メ翌月五日迄ニ逓信局ニ提出ス  
ヘシ  
雨量日表ハ別ニ一通ノ控ヲ作製シ順次綴込ミ一箇年分毎ニ取纏メ  
保存スヘシ
- 第四 雨量觀測野帳ニハ鉛筆ヲ結ヒ附ケ常ニ之ヲ携帯シ觀測セル事

二二二	量水標設置報告書
二二三	測水所設置報告書
二二四	水準據標 設置報告書
二二五	河川縱斷面圖 (正副)
二二六	河川橫斷面圖 (正副)

項ヲ直ニ記入シ雨量日表作製ノ資料ト爲スヘシ

第五 觀測器具及設備ハ充分ニ注意シテ取扱ヒ且之ヲ鄭重ニ保存ス  
ヘシ  
器具及設備ニ破損ヲ生シタルトキハ觀測ニ差支ナキ様適宜ノ方法  
ヲ講シ直ニ其ノ旨ヲ測量班又ハ逓信局ニ報告シ修理又ハ交換ヲ請  
求スヘシ

第六 觀測ニ用ウル時計ハ常ニ鐵道停車場郵便局測候所等ノモノニ  
合セ置クヘシ  
第七 同一ノ觀測所ニ二人以上ノ觀測者アルトキハ雨量日表ノ記事  
欄ニ毎日ノ擔當者氏名ヲ記入シ又ハ認印ヲ押捺スヘシ  
第八 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ觀測ニ從事スルコト能ハサルトキハ  
代人ヲシテ之ヲ行ハシメ其ノ旨ヲ雨量日表ノ記事欄ニ記入スヘシ  
前項ノ代人ハ豫メ定メ置クヘシ

第九 雨量日表用紙、雨量觀測野帳、諸報告ニ要スル郵便切手類其ノ他  
必要ナル器具設備材料等ハ逓信局ヨリ之ヲ交付ス  
二降水量ノ觀測

第十 降水量ハ雨量計又ハ雪量計ニ依リ觀測シ雨量日表ノ雨量欄ニ  
記入スヘシ  
當日觀測シタル降水量ハ前日ノ雨量欄ニ記入スヘシ

第十一 降水量ノ單位ハ糎トシテ十分ノ一(〇)一糎迄雨量日表ニ記載  
スヘシ但シ〇一糎ニ達セサルトキハ〇〇ト記入シ降水全クナキト  
キハ黒線ヲ引クヘシ

第十二 潜水瓶ニ溜レル水ヲ測ルニハ之ヲ硝子杯ニ移シ其ノ上部ヲ  
左手ノ拇指ト中指及薬指ニテ保持シ水面ヲ目ト水平ノ位置ニ置キ  
其ノ面ノ最も低キ所ニ相當スル目盛ヲ讀ムヘシ

第十三 雪、雹、霰等カ受水器内ニ入りタルトキハ豫メ其ノ量ヲ測リタ  
ル温湯ヲ注キ之ヲ融解シテ測リ先ニ注キタル温湯ノ量ヲ減スヘシ  
降雪ノ際ニハ附近ニ於ケル雪ノ深サヲ曲尺ヲ以テ測リ之ヲ雨量日  
表ノ記事欄ニ記入スヘシ

第十四 降雪多キ地方ニ於テ雪量計ヲ設置シタル場合ハ觀測者ハ前  
述ノ方法ニ依リ器中ノ雪ヲ融解シテ測ルヘシ  
第十五 強雨雪アリタルトキハ定時刻ニ至ラサルモ其ノ都度之ヲ測  
リ其ノ量及繼續時間ヲ雨量日表ノ記事欄ニ記入シ其ノ量ハ之ヲ定  
時刻ニ測リタル量ニ加算スヘシ

第十六 雨雪ノ降り始め降り止リ及強雨雪ノ時刻ハ之ヲ雨量日表ノ  
記事欄ニ記入スヘシ  
三、風向及風力ノ觀測

第十七 風向ハ左ノ區別ニ從ヒ雨量日表ニ記入スヘシ  
北、北東、東、南東、南、南西、西、北西

第十八 風力ハ左ノ區別ニ從ヒ數字ヲ以テ雨量日表ニ記入スヘシ  
風力名稱 意 義

- 〇 靜穩 煙全ク直上シ樹葉動カサル程度ノモノ
- 一 和風 樹葉ノ動ク程度ノモノ
- 二 強風 樹木ノ大枝ノ動ク程度ノモノ
- 三 颶風 家屋ノ大破ヲ來シ樹木ヲ倒ス程度ノモノ
- 四、天氣及雜象ノ觀測

第十九 天氣ハ左ノ區別ニ從ヒ雨量日表ニ記入スヘシ  
快晴、晴、曇、雨、雪(午前中晴ニシテ午後雨ナルトキ)  
第二十 左ノ現象ヲ認メタルトキハ其ノ時刻及狀況ヲ雨量日表ノ記  
事欄ニ記入スヘシ

雷鳴、電光、降雹、降霰、霧等

附則

第二十一 通信局ニ提出スル書類ニハ總テ其ノ上封ニ「水力調査」ト朱書スヘシ

氣象觀測者心得

一、通則

第一 氣象觀測者ハ本心得ヲ熟讀シ誠實ニ其ノ任務ヲ盡スヘシ  
本心得ニ明記ナキ事項ニ就テハ測景班又ハ通信局ニ問合スヘシ

第二 氣象觀測者ハ毎日午前十時左記ノ觀測ヲ爲シ其ノ結果ニ依リ氣象日表ヲ作製スヘシ

一、氣温ノ觀測

二、降水量ノ觀測

三、風向及風力ノ觀測

四、天氣及雜象ノ觀測

五、蒸發量ノ觀測

第三 氣象日表ハ一箇月分毎ニ取纏メ翌月五日迄ニ通信局ニ提出スヘシ

氣象日表ハ別ニ一通ノ控ヲ作製シ順次綴込ミ一箇年分毎ニ取纏メ保存スヘシ

第四 氣象觀測野帳ニハ鉛筆ヲ結ビ付ケ常ニ之ヲ携帯シ觀測セル事項ヲ直ニ記入シ氣象日表作製ノ資料ト爲スヘシ

第五 觀測器具及設備ハ充分ニ注意シテ取扱ヒ且之ヲ鄭重ニ保存スヘシ

器具及設備ニ破損ヲ生シタルトキハ觀測ニ差支ナキ様適宜ノ方法

第十四 降雪多キ地方ニ於テ雪量計ヲ設置シタル場合ハ觀測者ハ前

記ノ方法ニ依リ器中ノ雪ヲ融解シテ測ルヘシ

第十五 強雨雪アリタルトキハ定時刻ニ至ラサルモ其ノ都度之ヲ測

リ其ノ量及繼續時間ヲ氣象日表ノ記事欄ニ記入シ其ノ量ハ之ヲ定

時刻ニ測リタル量ニ加算スヘシ

第十六 雨雪ノ降り始め降り止り及強雨雪ノ時刻ハ之ヲ氣象日表ノ

記事欄ニ記入スヘシ

三、風向及風力ノ觀測

第十七 風向ハ左ノ區別ニ從ヒ氣象日表ニ記入スヘシ

北、北東、東、南東、南、南西、西、北西

第十八 風力ハ左ノ區別ニ從ヒ數字ヲ以テ氣象日表ニ記入スヘシ

風力 名稱 意義

○ 靜穩 煙全ク直上シ樹葉動カサル程度ノモノ

一 和風 樹葉ノ動ク程度ノモノ

二 強風 樹木ノ大枝ノ動ク程度ノモノ

三 颶風 家屋ノ大破ヲ來シ樹木ヲ倒ス程度ノモノ

四、天氣及雜象ノ觀測

第十九 天氣ハ左ノ區別ニ從ヒ氣象日表ニ記入スヘシ

快晴、晴、曇、雨、雪(午前中晴ニシテ午後雨ナルトキ)

第二十 左ノ現象ヲ認メタルトキハ其ノ時刻及狀況ヲ氣象日表ノ記

事欄ニ記入スヘシ

雷鳴、電光、降雹、降霰、霧等

第二十一 氣温ハ最高寒暖計及最低寒暖計ニ依リ觀測シ一度ノ十分

ノ一迄讀ミテ氣象日表ニ記入スヘシ

ヲ讀シ直ニ其ノ旨ヲ測量班又ハ通信局ニ報告シ修理又ハ交換ヲ請

求スヘシ  
第六 觀測ニ用フル時計ハ常ニ鐵道停車場郵便局、海候所等ノモノニ

合セ置クヘシ  
第七 同一ノ觀測所ニ二人以上ノ觀測者アルトキハ氣象日表ノ記事

欄ニ毎日ノ擔當者氏名ヲ記入シ又ハ認印ヲ押捺スヘシ  
第八 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ觀測ニ從事スルコト能ハサルトキハ

代人ヲシテ之ヲ行ハシメ其ノ旨ヲ氣象日表ノ記事欄ニ記入スヘシ  
前項ノ代人ハ豫メ定メ置クヘシ

第九 氣象日表用紙、氣象觀測野帳、諸報告ニ要スル郵便切手類其ノ他

必要ナル器具設備材料等ハ通信局ヨリ之ヲ交付ス

二、降水量ノ觀測

第十 降水量ハ雨量計又ハ雪量計ニ依リ觀測シ氣象日表ノ雨量欄ニ

記入スヘシ

當日觀測シタル降水量ハ前日ノ雨量欄ニ記入スヘシ

第十一 降水量ノ單位ハ「トシ十分ノ一」ニ「耗迄」氣象日表ニ記載ス

ヘシ但シ「〇」一耗ニ達セサルトキハ「〇」ト記入シ降水全クナキトキ

ハ「黒線」ヲ引クヘシ

第十二 降水量瓶ニ溜レル水ヲ測ルニハ之ヲ硝子樽ニ移シ其ノ上部ヲ

左手ノ拇指ト中指及薬指ニテ保持シ水面ヲ目ト水平ノ位置ニ置キ

其ノ面ノ最低部ニ相當スル目盛ヲ讀ムヘシ

第十三 雪、霰、霰等受水器内ニ入りタルトキハ豫メ其ノ量ヲ測リタ

ル温湯ヲ注キ之ヲ融解シテ測リ先ニ注キタル温湯ノ量ヲ減スヘシ

降雪ノ際ニハ附近ニ於ケル雪ノ深サヲ曲尺ヲ以テ測リ之ヲ氣象日

表ノ記事欄ニ記入スヘシ

第二十二 當日觀測シタル最高寒暖計ノ示度ハ之ヲ前日ノ氣象日表

ノ示度欄ニ最低寒暖計示度ハ之ヲ當日ノ氣象日表ノ示度欄ニ記入

スヘシ  
最高寒暖計及最低寒暖計示度ヲ讀ミタルトキハ之ヲ復度シテ再ヒ

之ヲ讀ミ當日ノ氣象日表ノ復度欄ニ記入スヘシ

第二十三 寒暖計ノ示度ヲ讀ムニ當リテハ觀測者ノ眼ヲ常ニ寒暖計

ト直角ノ位置ニ置キ又温度其ノ他ニ依リ示度ニ差違ヲ生セシメサ

ル様注意スヘシ

六、蒸發量ノ觀測

第二十四 蒸發量ハ蒸發計ニ依リ觀測シ氣象日表ニ記入スヘシ

第二十五 當日觀測シタル蒸發量ハ前日ノ氣象日表ノ蒸發量欄ニ記

入スヘシ  
蒸發量ノ單位ハ「耗」トシ十分ノ一「〇」ニ「耗迄」記載スヘシ但シ「〇」一耗ニ

達セサルトキハ「〇」ト記入スヘシ

第二十六 蒸發計ニハ毎日觀測ヲ終ル毎ニ硝子樽ニテ二杯ノ清水ヲ

入れ置クヘシ  
第二十七 蒸發量ハ前日ノ置キタル水量ヨリ蒸發計中ニ残存セル

水量ヲ差引キタルモノトス但シ降雨等アリタルトキハ蒸發計中ノ

水量ヨリ其ノ降水量雨量計ニ依リテ觀測シタルモノヲ差引クヘシ  
第二十八 蒸發計中ノ水量ヨリ降水量差引キタルモノカ前日ノ入レ

置キタル水量ヨリ増加シタルトキハ誤差ニ依ルモノト看做シ蒸發

場合ハ常ニ之ヲ冠セ置クヘシ

附則

第三十一 逓信局ニ提出スル書類ニハ總テ其ノ上封ニ「水力調査」ト朱書スヘシ

三 水位観測者心得 河川流量調査ノ正否ハ正確ナル水位ノ観測ニ俟ツコト大ナルヲ以テ之カ観測ニハ周到ノ注意ヲ拂ヒ左ノ心得ニ據ラシメタリ

水位観測者心得

一通則

第一 水位観測者ハ本心得ヲ熟讀シ誠實ニ其ノ任務ヲ盡スヘシ

本心得ニ明記ナキ事項ニ就テハ測量班又ハ逓信局ニ問合スヘシ

第二 水位観測者ハ左記ノ観測ヲ爲シ其ノ結果ニ依リ水位日表及高水位表ヲ作製スヘシ

一、毎日ノ観測

本観測ハ特ニ指定シタル場合ヲ除クノ外毎日午前十時ニ行フヘシ

二、高水時ノ観測

本観測ヲ爲スヘキ場合ノ水位及時間ハ別ニ指定ス

第三 水位日表ハ一箇月分毎ニ取纏メ翌月五日迄ニ高水位表ハ出水ノ終ル毎ニ測量班ニ提出スヘシ

水位日表及高水位表ハ別ニ一通ノ控ヲ作製シ順次繰込ミ一箇年分毎ニ取纏メ保存スヘシ

第四 水位観測野帳ニハ鉛筆ヲ精ヒ附ケ當ニ之ヲ携帯シ観測セル事

北、北東、東、南東、南、南西、西、北西

三、風力(數字ヲ以テ記載スルコト)

風力 名稱 意 義

○ 靜穩 煙全ク直上シ樹葉動カサル程度ノモノ

和風 樹葉ノ動ク程度ノモノ

一 強風 樹木ノ大枝ノ動ク程度ノモノ

二 颶風 家屋ノ大破ヲ來シ樹木ヲ倒ス程度ノモノ

第十二 左記ノ事項中著シキモノアルトキハ之ヲ水位日表ノ記事欄ニ記入スヘシ

一、河水ノ清濁及河床堤防ノ異狀

二、流木、流氷、舟筏航行ノ狀況

三、附近ノ灌溉排水ノ異狀

三、高水時ノ観測

第十三 高水時ニ於ケル水位ハ別ニ指定スル時間毎ニ第十號ニ準シ之ヲ観測シ高水位表ニ記入スヘシ

第十四 高水位観測時ニ於ケル天氣風向及風力ハ第十一號ニ準シ高水位表ニ記入スヘシ

第十五 左記ノ事項ハ之ヲ高水位表ノ記事欄ニ記入スヘシ

一、出水中ノ天氣ノ概況、出水ノ模様、堤防ノ破壊及氾濫其ノ他著シキ被害ノ狀況及時刻

二、最高水位及其ノ時刻

附則

第十六 逓信局ニ提出スル書類ニハ總テ其ノ上封ニ「水力調査」ト朱書スヘシ

項ヲ直ニ記入シ水位日表作製ノ資料ト爲スヘシ

第五 量水標ハ移動流失又ハ破損セサル様充分注意シ舟筏ヲ繋グカ如キコトナカラシメ出水時等ニハ相當ノ保護ヲ爲スヘシ量水標移動流失又ハ破損シタルトキハ観測ニ差支ナキ様直ニ假標ヲ設ケ観測ヲ繼續シ速ニ測量班又ハ逓信局ニ其ノ狀況ヲ報告スヘシ

第六 観測ニ用ウル時計ハ常ニ鐵道停車場郵便局、測候所等ノモノニ合セ置クヘシ

第七 同一ノ観測所ニ二人以上ノ観測者アルトキハ水位日表又ハ高水位表ノ記事欄ニ毎日ノ擔當者ノ氏名ヲ記入シ又ハ認印ヲ押捺スヘシ

第八 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ観測ニ從事スルコト能ハサルトキハ代人ヲシテ之ヲ行ハシメ其ノ旨ヲ水位日表又ハ高水位表ノ記事欄ニ記入スヘシ

前項ノ代人ハ豫メ定メ置クヘシ

第九 水位日表及高水位表ノ用紙水位観測野帳諸報告ニ要スル郵便切手類其ノ他必要ノ物品並假標設置及出水ニ際シ量水標保護ノ爲ニ要シタル費用等ハ逓信局ヨリ之ヲ支給ス

二、毎日ノ観測

第十 水位ハ量水標ニ依リ分位迄観測シ水位日表ニ記入スヘシ但シ水面動搖シテ分位迄観測スルコト能ハサルトキハ五分位又ハ寸位ニ止メ分位ニハ五分位ヲ除クノ外何等ノ記載ヲ爲ササルモノトス

第十一 天氣、風向及風力ハ左ノ區別ニ從ヒ水位日表ニ記入スヘシ

一、天 氣

快晴、晴、曇、雨、雪(午前中晴ニシテ午後雨ナルト)

二、風 向 (キハ晴後雨トス其他之ニ準ス)

四、流速計係數試驗規則 水力調査ニ使用スル流速計係數ノ正否ハ河川流量測定ノ精粗ニ關係スルコト大ナルヲ

以テ第九章ニ述ヘタル如ク大正八年新ニ流速計檢定所ヲ設ケ本調査ニ使用スル流速計ノ係數試驗ヲ行フコトトシ尙一般事業者ノ流速計モ亦其ノ係數試驗ヲ希望スルモノアルトキハ之ニ應スルコトトセリ。之ニ關スル申請規則左ノ如シ

流速計係數試驗規則

大正十年十二月十四日 逓信省令第五十二號

第一條 發電水力調査用流速計係數試驗ノ依頼ハ本令ノ定ムル所ニ依ル 但シ事務ノ都合ニ依リ之カ依頼ニ應セサルコトアルヘシ

第二條 流速計ノ係數試驗ヲ申請スルモノハ第一號書式ノ申請書ニ現品ヲ添ヘ之ヲ逓信省電氣局ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ申請者カ東京市又ハ其ノ隣接町村内ニ住所ヲ有セサルトキハ右地域内ニ於テ流速計ヲ引取人ヲ定メ其ノ住所氏名ヲ申請書ノ差出ト同時ニ届出ツヘシ

第三條 流速計ノ係數試驗ヲ申請スル者ハ一箇ニ付十五圓ノ手数料ヲ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

前項ノ收入印紙ハ逓信省ニ於テ之ヲ消印ス

第四條 流速計ノ係數試驗ヲ爲シタルトキハ第二號書式ノ試驗成績書ヲ申請者ニ交付ス

必要アリト認ムルトキハ試驗ヲ爲シタル流速計又ハ其ノ容器ニ香

號ヲ附スルコトアルヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式



流速計係數試驗申請書

一、種類 何々式何々型等ノ區別

二、製造者名

三、番 號

右發電水力調査用流速計ノ係數試驗申請候也

年 月 日

住所

申請者氏 名

住所

流速計引取人 氏 名

逓信大臣宛

### 五、流速計係數試驗心得 流速計係數試驗規則ニ依ル試驗ハ左記心得ニ依リテ之ヲ行ヒタリ

#### 流速計係數試驗心得

- 第一條 流速計係數ノ試驗ハ別ニ定ムル場合ノ外本心得ニ依ル
- 第二條 本試驗ニ使用スル單位及術語左ノ如シ
  - 一、距離 尺
  - 二、時間 秒
  - 三、迴轉數 毎秒回

ヲ除去シ流速計檢定車ニハ注油ノ上充分ナル掃除ヲ施スヘシ

第十一條 流速計係數ノ計算ハ記錄裝置ノ印字紙ニ現ハレタル記錄ノ内等整ナル部分ニ就キ之ヲ行ヒ流速計係數實驗表、流速計係數曲線圖並流速計係數計算表ヲ作製スルモノトス

第十二條 流速計係數實驗表ハ甲號用紙(卷末第十九號表)参照テ用キ前條ノ記錄ヨリ走行時間、距離及流速計ノ迴轉數ヲ算出シ毎秒時ノ速度及迴轉數ヲ決定スルモノトス

第十三條 流速計係數曲線圖ハ乙號用紙(卷末第十七號表)参照テ用キ流速計係數實驗表ニ於テ決定シタル毎秒時ノ速度及迴轉數ヲ圖示シ左ノ算式ヲ以テ直線ヲ畫クモノトス

$$V = an + b$$

但シ V、流速(檢定車ノ速度)

n、流速計ノ迴轉數

a、b、係數

第十四條 流速計係數計算表ハ丙號用紙(卷末第二十號表)参照テ用キ次ノ算式ニ依リテ前條ノ係數ヲ算出スルモノトス此、場合ニ於テ

流速計係數曲線圖ノ圖示點中不適當ト認めラレタルモノアルトキハ之ヲ除外スヘシ

$$a = \frac{(n_2 - n_0)(v_1 - v_0)}{(n_1 - n_0)^2}$$

$$b = v_0 - an_0$$

但シ n、v、夫々第十二條ノ實驗表ニ於ケル迴轉數及速度ニシテ n<sub>0</sub>、v<sub>0</sub>、夫々 n、vノ平均値ナリ

「」ハ其ノ内ニ於ケル數値ノ總和

第十五條 數迴轉毎ニ音響ヲ發スル流速計ニアリテハ第十三條ノ算式ヲ次ノ如ク變更スルコトヲ得

四、速度又ハ流速 毎秒尺

五、流速 檢定車走行ノ速度又ハ流水ノ速度

六、流速計ノ迴轉數 流速計ノ迴轉數ノ迴轉數

七、係數曲線 流速計ノ迴轉數ト流速トノ關係ヲ示ス曲線

八、流速計ノ係數 流速計ノ迴轉數ト流速トノ關係ヲ示ス係數

第三條 流速計係數ノ試驗ハ停止セル水中ニ於テ流速計ヲ各種ノ等速度ヲ以テ一直線ニ走行セシメテ之ヲ行フ

第四條 試驗スヘキ流速計ハ之ヲ檢定車ノ一端ニ垂下セル金屬棒ノ下端ニ取付ケ共ノ迴轉數ヲ記錄セシムルタメ電氣回路ヲ接續スヘシ

第五條 流速計ハ水深一尺以上ノ位置ニ保持セシムヘシ

第六條 流速計ノ取付ヲ終リタルトキハ檢定車ヲ等速度ヲ以テ數尺走行セシメ記錄裝置カ正確ニ各種ノ記錄ヲナスヤ否ヤヲ檢スヘシ

第七條 前條ニ依リ機械ニ異常ナキコトヲ認メタルトキハ檢定車ヲ種々ナル等速度ヲ以テ走行セシムヘシ

第八條 檢定車ノ走行回数ハ凡ソ左記ノ標準ニ依リ一個ノ流速計ニ就キ十五回以上トシ一回ノ走行距離ハ檢定車カ等速度ヲ有スルトキニ於テ適宜ニ決定スルモノトス

檢定車ノ速度 一〇以下、一乃至三、三乃至四、四乃至七、七乃至九、九以上、計(毎秒尺) 二 三 三 二 二 一五

第九條 檢定車走行ノ際ハ其ノ速度カ等速度ナルヤ否ヤ流速計ノ迴轉カ整一ナルヤ否ヤヲ注視シ記錄裝置ニ現ハルル記錄ニ注意スルヲ要ス

第十條 試驗作業ヲ終リタルトキハ流速計ヲ檢定車ヨリ取外シ水倉

$$V = a \frac{N}{n} + b$$

但シ V、速度(檢定車ノ速度)

N、迴轉數(流速計ノ迴轉數)

n、流速計ノ迴轉數

a、b、係數

第十六條 試驗ヲ終リタル流速計ニハ第十三條又ハ第十五條ノ算式ヲ記載シタル流速計係數試驗成績書ヲ添付ス

### 六、發電水力調査圖表類副本交付規則 本調査ニ於テ作製セル圖表類ハ左ノ規則ニ依リ一般事業者ニ交付ス

發電水力調査圖表類交付規則 大正三年五月省令第十一號 大正十年四月省令第二十號改正

第一條 逓信省ニ於テ調査シタル發電水力調査圖表類ハ其ノ副本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第二條 調査圖表類ノ交付ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ第二號書式ノ企業概要書ヲ添付スヘシ

第三條 調査圖表類ノ交付ヲ申請セントスルモノハ左ノ區別ニ依リ手数料ヲ納付スヘシ

一、流量ニ關スル調査圖表類

一、流量測定地點又ハ一測水所

一、歷年分ニ付

金五十圓

一、歷年ニ於ケル調査期間一年未滿ノモノニ付

金二十五圓

第十二章 調査ニ關スル規程

二、地形ニ關スル調査圖表類

一、水力地點又ハ一水力地點トシテ

利用セムトスル區間ニ付

金 百 圓

手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼付シテ納付スヘシ

前項ノ收入印紙ハ逓信省ニ於テ之ヲ消印ス

第四條 逓信省ニ於テ調査シタル流量測定地點又ハ測水所及發電水力地點ハ地方廳又ハ逓信局ニ就キ承合スヘシ

第五條 (削 除)

第一號書式



發電水力地點調査圖表類副本交付申請書

貴省ニ於テ調査相成候左記圖表類ノ副本交付相成度企業概要書添付此段申請候也

記

一、流量圖表 (自何年何月 至何年何月)

但シ何々水系何々川筋何縣何郡何村字何流量測定地點又

ハ測水所ニ關スルモノ

二、地形圖

但シ何々水系何々川筋何號水力地點又ハ自何縣何郡何

村字何至何縣何郡何村字何間 (何川合流點) ノモノ

年 月 日

住 所

申請者 氏 名

逓信大臣宛

第二號書式

企業概要書

一、企業者名

二、利用河川及地點

河川名 何水系 何川

地點 取入口 何縣何郡何村字何

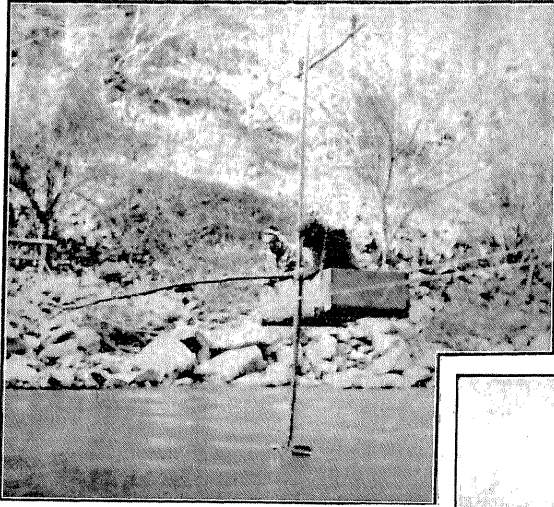
放水口 何縣何郡何村字何

三、水力利用ノ目的

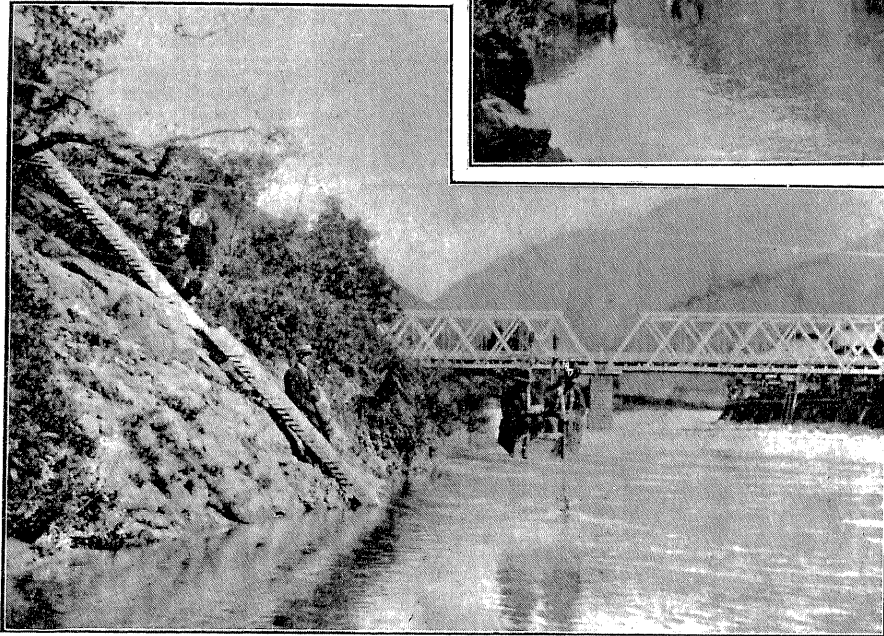
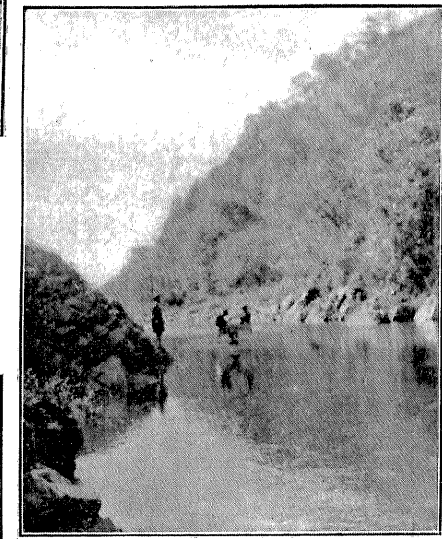
四、動力利用區域

業 作 水 測 箱 吊

信濃川水系梓川  
奈川渡測水所



木曾川水系吉田川  
市島測水所

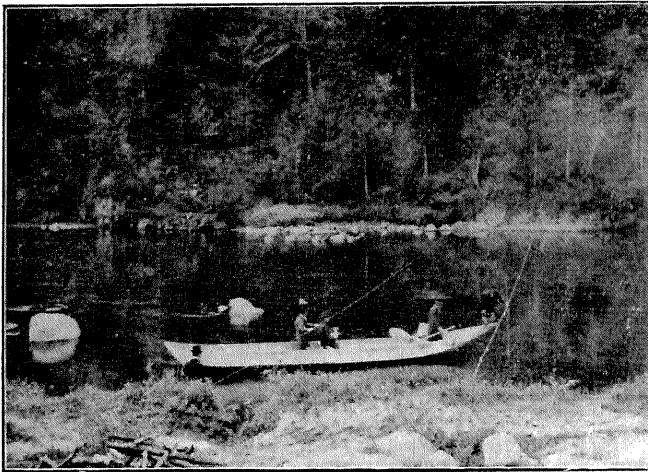


所 水 測 見 瀬 川 國 小 系 水 川 上 最

業 作 水 測 上 舟



最上川水系小國川  
瀬見測水所



太田川水系太田川  
香草測水所



北上川水系北上川  
葛測水所



業 作 水 測 ノ 期 氷 結



所水測ラタクイ下 川ラタクイ系水川別湧



石狩川水系空知川  
落合測水所



石狩川水系石狩川  
伊納測水所